

(HP公開様式)

政務活動費の調査研究に係る海外調査、宿泊を伴う県外調査の概要

1 題目：チームやまなし県外調査

2 調査報告概要

調査者 会派名等	[会派名、調査者全員の氏名] 会派名：チームやまなし 調査者：望月利樹、早川浩、水岸富美男、上田仁、佐藤茂樹、卯月政人
調査内容	1 調査目的 森林県である本県林業の課題解決や木育についてどのように取り組んで行くべきか、その方向性を見出す。 また、リニア開業を見据えた交通・観光・人口減少について調査。意見交換を行い学ぶ。 2 調査テーマ ① 森林産業を抱える課題と山梨県の可能性と取り組み。 ② シエスタハコダテの取り組み ③ 木育を活用した取り組み ④ 新幹線開業を活かした、交通・観光・人口減少への取り組み 3 調査期間 平成30年 7月24日～平成30年 7月26日 (2泊3日) 4 調査地 [海外→国名・都市名]・[国内→都道府県名・市町村名] 東京都 北海道函館市函館本町 北海道函館市美原 青森県青森市 5 その他 特になし

3 調査テーマ毎の調査項目と選定理由

<p>〔調査テーマ〕</p> <p>森林産業の抱える課題と山梨県の可能性と取り組み</p>	<p>〔調査項目〕</p> <p>森林産業が抱える全国的な課題と山梨県の林業産業の可能性について</p> <p>〔選定理由〕</p> <p>全国の県有林行政と森林産業について現状と、山梨県の森林産業についての可能性や課題について知り、今後の取り組みの参考にするために選定した。</p> <p>〔調査結果の活用方針〕</p> <p>富士北麓屋内練習走路には林野庁の交付金を用いたが他にも山梨県には和紙を始めツールとなるべきものがあると思えるので執行部と意見を出し合って探っていきたい。</p>
<p>〔調査テーマ〕</p> <p>シエスタハコダテの取り組み</p>	<p>〔調査項目〕</p> <p>市民が一日楽しめる木のぬくもりある設備として再開発した例を調査し、本県での可能性について</p> <p>〔選定理由〕</p> <p>木育をテーマに市民のコミュニティーの場として官民が連携して整備され、憩いの場として成功事例として参考になる施設を調査するため選定した。</p> <p>〔調査結果の活用方針〕</p> <p>民間の力をうまく利用して、市営のコミュニティープラザと連動している。子供が遊べ、学生が勉強でき、お年寄りまで落ち着ける場として参考にしたい。</p>

<p>[調査テーマ] 木育を活用した 取り組み</p>	<p>[調査項目] 木育を活用した子供達の育成や木材製品販売等の現状及び課題について</p> <p>[選定理由] 木育という言葉の発祥地であり、知事が木育宣言を行う先進地の取り組みを学ぶために選定した。</p> <p>[調査結果の活用方針] 子供達に木を使った温もりあるイベントや活動で木に親しみが感じられるように取り組みが行われている。森を利用した健康づくり等地域づくりにも一助となる、いろいろな活動が行われていて参考となる。森林県である山梨も検討する必要がある。</p>
<p>[調査テーマ] 新幹線開業を活 かした、交通・観 光・人口減少への 取り組み</p>	<p>[調査項目] ・人口減少対策における現状及び課題。 ・北海道新幹線開業における観光誘致への現状及び課題 ・若年層の流出を防ぐ為の現状及び課題</p> <p>[選定理由] 北海道新幹線開業にとる効果を調査し、リニア開通後の、交通・観光・人口減少対策の面から学び、本県の最大のチャンスを活かす参考とするために選定した。</p> <p>[調査結果の活用方針] JR のキャンペーンを利用して観光客誘客に積極的に動いているように感じられる。リニア開業までに先進事例を参考に対策を講ずる検討を進めていきたい。人口減少克服へ「経済を回す」という考えは知事以下、県の同一意識の共有を徹底している。あおもり移住クラブを設立し、移住や、一度出た若者の U・I ターンに向けた取り組みも参考にすべきと考える。</p>

4 調査項目に係る調査都市・施設・担当者等の選定

調査項目	都市（市町村）名・施設名・担当者名及び選定理由
<p>森林産業が抱える全国的な課題と山梨県の林業産業の可能性について</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 東京都千代田区霞が関1-2-1 林野庁林政部 小島 様 国有林部 松村 様、 宇野 様</p> <p>[選定理由] ・全国的に抱える県有林問題と山梨県における林業生産性の可能性について林野庁の助成金などの説明を受け今後の本県林業の活性化について参考にするために選定した。</p>
<p>市民が一日楽しめる官民一体となった憩いの場シエスタハコダテの運営</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] [調査先] 北海道函館市函館本町24-1 良品計画 様 シエスタハコダテ 様</p> <p>[選定理由] ・官民一体型のコミュニティープラザの活用内容、取り組み、課題等について参考にしたい。</p>
<p>木育を活用した教育と産業の取り組み</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 函館市美原4-6-16 北海道渡島総合振興局東部森林室 山谷 様、 武本 様、 佐藤 様</p> <p>[選定理由] ・木育の情操教育などの活動から産業へ繋げて行く為の現状課題や木育マイスター育成の取り組みについて参考にしたい。</p>
<p>リニア開通を見据えた、新幹線開業事例を参考とした交通・観光・人口減少への取り組みについて</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 青森県青森市長島1-1-1 青森県 交通対策課 菊池 様 誘客交流課 松尾 様 地域活力振興課 五戸 様</p> <p>[選定理由] ・外国人誘客の現状課題や人口減少対策・若年層定着対策などの取り組みや課題を参考にしたい。</p>

5 調査内容

○調査テーマ：(森林産業)

調査項目	森林産業が抱える全国的な課題と山梨県の林業産業の可能性について		
調査都市等	東京都千代田区霞が関1-2-1	調査日	7月24日
調査結果概要	<p>全国の森林産業の売り上げの1/2が木材製品で残りの1/2はきのこ類等をはじめとする徳用林産物。その中において国産漆は生産量が少なく重要。そのため重要文化財の修復も半分程度しか進んでいない現状がある。生産拡大を図るべき施策「森林・山村多目的機能発揮対策交付金」等の活用を深めている。</p>		

調査項目	市民が一日楽しめる官民一体となった憩いの場シエスタハコダテの運営		
調査都市等	北海道函館市函館本町2-4-1	調査日	7月25日
調査結果概要	<p>閉店したデパートを函館市が買い取り、B1Fは食料品店と市内の有名飲食店、1Fから3Fまでを飲食店を含み木育をコンセプトとした陳列方式で無印良品が運営し、4Fは函館コミュニティプラザGスクエアとして市民の集える場所として市民のため木育広場として開放し、絵本を3冊寄付すれば2冊の本の交換が出来る仕組みも作っている。</p> <p>一日、楽しめる施設となっている。</p>		

調査項目	木育を活用した教育と産業の取り組み		
調査都市等	函館市美原4-6-16	調査日	7月25日
調査結果概要	<p>北海道の木育理念である「子供をはじめとする全ての人が木を身近に使っていくことを通じて人と木と森との関わり合いを主体的に考えられる心を育む」というキーワードで子供の時から木に触れあう教育を行い、木の専門家として北海道が認定する木育マスターを育成し、代表製品である道南杉等の販売につなげている。木棒（きぼう）のプールという木の棒に子供達にメッセージを書いてもらい被災者に送る活動も行っている。</p>		

調査項目	リニア開通を見据えた、新幹線開業事例を参考とした交通・観光・人口減少への取り組みについて		
調査都市等	青森県青森市長島1-1-1	調査日	7月26日
調査結果概要	<p>北海道新幹線の開通を契機として文化・経済等を始め様々な側面で効果を獲得しようと取り組みを進めている。</p> <p>元々、青森から函館まで船で四時間かかっていたが、トンネルが出来て二時間となり、さらに新幹線開業で61分で行けるようになった。</p> <p>プロジェクトという大入り大作戦や圏域内交流を働きかけ、さらにJRのディスティネーションキャンペーンにより外国人を始め観光客入り込み客数は大きく伸びている。</p>		

○各参加者の所感及び調査結果の活用方針 テーマ 森林産業の抱える課題と山梨県の可能性と取り組み

議員氏名	所感及び活用の考え方
早川 浩	<p>○林業生産額の半分 5 割は材木、残り 5 割は特用林産物（漆・竹・椎茸・キノコ）</p> <p>○文化庁によると国宝・重要文化財建造物の保存修理の必要需要が 2.2 トンに対し、H28 年現在国内では、約 1.2 トンのみ。約 2 倍にする必要あり。</p> <p>※国が買い上げてくれるという事。</p> <p>○現状、全国に約 320ha のウルシ林があり約 20 年前には、ほぼ同様の面積のウルシ林から 2.6 トンのウルシ生産をしていたことから、今後は潜在的にウルシの生産増は可能で更なる需要増に対応した生産拡大を図るべき。</p> <p>○H28 年時は岩手県、茨城県で約 9 割を占める。</p> <p>○山梨県でも白州町白須の山林で漆の植樹を進めている動き有り。</p> <p>○日本のジャパンはウルシという意味もある。</p> <p>○来年から新森林環境税の使い道のひとつとして、県民への「森育」施設等啓蒙する事も一つ。</p> <p>○県有林と民有林とが協力し安定供給することが民有林振興につながる。</p> <p>○小学校の机をさらに木にして森育へ。</p>
望月 利樹	<p>○林野庁の政策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国、林産業では木材ときのこの栽培がほとんどを占めている。 ・国産漆の生産量の減少につき生産拡大を図るべき施策を「森林・山村多目的機能発揮対策交付金」等の活用を深めている。 <p>○日本の重要文化財建造物の修復も生産減少により半分程度しか出来ない状況にある</p>
上田 仁	<ul style="list-style-type: none"> ・3名とも、元々、県に在住していた人なので、旧知であり様々な話題、課題についてざっくばらんの話を伺えた。 ・今の県有林行政の抱える全国的な課題を共に山梨県の事情について話を伺える事が出来た。 ・具体的には <p>○全国では林産業の売り上げの 1/2 は木材、残りの 1/2 のきのこ</p>

	<p>など徳用林産物</p> <p>○特殊の例として国産漆の生産振興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内生産量は減少により、今では日本の文化財建造物の修復だけでも、その半分程度しか生産できていない。 ・国産漆の自給率・利用率のアップ、漆産地の地域活性化※その中で「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」 <p>○森林環境税の導入に対して検討の必要性</p> <p>○材木について原木需要はあるが供給出来ない事情</p>
<p>佐藤 茂樹</p>	<p>○対応して頂いた方々は山梨県へ出向していただいた経験があり山梨県のこと全国でのことをお伺いした。</p> <p>○林業における生産額の半分は材木、残り半分は徳用林産物（漆・竹・椎茸・キノコ類）が占める。</p> <p>○山梨県は県有林が8割以上を占め、林務行政の今後が期待される。</p> <p>○特殊な例として国産漆の生産振興が今後注目されていく。</p> <p>○現在、漆の国内生産量は減少傾向にあり日本固有の文化財・建造物の修復需要にはその半分しか生産出来ずに応えられない。</p> <p>○今後、自給率の向上のため県産漆の生産に力を入れることが重要とのこと。</p> <p>○他、森林環境税の導入に対して検討がされる中、必要性和使い道を探るべき。</p> <p>○材木の原木需要があるが林家の高齢化により切り出し運搬等、問題点が多く供給面に不安あり、県政課題とすべし。</p>
<p>卯月 政人</p>	<p>○林業生産の半分は木材で残りの50%は徳用林産物といわれる、漆・竹・椎茸をはじめとするキノコ類が占めている。</p> <p>○漆の国内生産量は減少により、国宝・重要文化財建造物の保存修理必要需要が2.2トンに対しH28年現在国内では約1.2トンのみ。約2倍にする必要がある。</p> <p>○H28年は岩手県、茨城県が生産量の約9割を占める。</p> <p>○国産漆は国が買い上げてくれる。山梨県でも白州町で漆の植樹を進めている動きがある。成功すれば今後の産業として期待が出来るのではないか。</p>

水岸富美男	欠 席
-------	-----

○各参加者の所感及び調査結果の活用方針 テーマ シエスタハコダテの取り組み

議員氏名	所感及び活用の考え方
早川 浩	<p>○無印良品函館出店の意義 地域の役に立つ店舗づくり・土着化モデル店舗</p> <p>○コンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外広域からの集客力・地域密着&リピート来店。 <p>○木育に注力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無印良品店は全国50店舗以上木育店。 ・教育研修、バスツアーを開催。 ・木育+花育（無印のプランターにカンナクズ木を入れた花を植える） ・木育+食育（植樹をした枝豆を食べる） <p>○（株）良品計画無印良品の■■■は木の杉ファン。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハコダテ店の■■■、■■■氏は山梨県北杜市出身であり山梨県における無印良品店での木育を提言するよう私たちから、お願いをした。
望月 利樹	<p>○若者や市民のくつろぎの場を提供するために良品計画（無印良品）と行政の「木育」を目的とした店舗づくりがなされている</p> <p>○子供から大人までの様々なニーズに合わせ過ぎしやすい空間に対応している。</p> <p>○図書館が設置されていて読まなくなった絵本を3冊寄付してくれると2冊の本を持ち帰れるサービスが行われている。</p> <p>○山梨県でも「木育」の活動を深め、全国で図書館の多い都道府県第1位山梨県として絵本図書館などの取り組みを考えていきたい</p>
上田 仁	<p>○函館コミュニティプラザ（市営）を訪問した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先ず、木の香りが胸一杯に拡がった。 ・入り易い店舗都市営（指定管理・良品計画）の共存の指針が見事に一致されていた。 ・良品計画の店舗も「木育」を中心観念に捉え、売り場面積を減じても、それに対応していた。 <p>※■■■の一言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売り場面積を減らしても、子供達が遊んでいる時間が長く、結果、売り上げが増になっている。 ・滞在時間がそのまま売り上げについてくる。 <p>○良品計画が事業内容等の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（例）絵本図書館

	<p>3冊の本を寄付してもらえば2冊の本を持って行ける→つなぎ育てる図書館</p> <p>・ベビーケアルームも設置され細かく行き届いたサービス精神が感じられる。</p> <p>○コンセプト</p> <p>若者、そして市民の夢を広く受け入れる空間に。</p> <p>○感想</p> <p>とにかく、ずっと店舗の中にいたくなるような雰囲気。</p>
佐藤 茂樹	<p>○地域の為に役に立つ「木」にこだわる店舗作りと函館市営のコミュニティープラザにおける「市民」との「共存」をコンセプトした方針がうまく一致している。</p> <p>入りやすい店舗、市内外広域的集客力が「木育」を中心概念と捉え売買・販売面積を縮小しても「木」と接し触れあうことで木の魅力を前面に出し集客力・地域密着でリピーターを集めている。</p> <p>一日中居られるコミュニティープラザであり子供達が遊ぶ事により親は安心して買い物が出来るようだ。滞在時間が長くなることで、そのまま売り上げアップに繋がっている。市と良品計画が密接に協議を行っており、今後、全国の無印良品の出店にも「木育」で大きな影響を与えていくと思われる。</p> <p>絵本図書館の充実、良品計画提案の絵本の寄付で他の絵本と交換出来る。</p> <p>子供達には大人気、親とこの支持拡大ベビーケアルームも充分広く細かく行き届いたサービス精神が感じられ客商売の原点を見た気がする。</p> <p>山梨県内においても「木育」を中心とした店舗集客施設のプラン作成を検討していきたい。██████、北杜市出身とのこと、山梨県のPRもお願いし県内無印良品への「木育」をお願いした。</p>
卯月 政人	<p>○閉店したデパートを函館市が買い取り1階から3階までを無印良品の店舗とし4階を行政が運営し市民のために木育広場として開放している。</p> <p>○「木育」を目的とした店舗づくりがされていて、子供から大人まで様々なニーズに合わせ年代を問わずに市民が過ごしやすい空間になっている。</p> <p>○図書館が設置されていて読まなくなった絵本を3冊寄付すると2冊の本を持ち帰れるサービスが行われている。</p>

水岸富美男	<p>◎木質の活動</p> <p>当初はデパートだった建物を函館市が買い取り、一階から三階までを無印良品に四階を行政で運営し市民の為に木育広場として開放している。</p> <p>絵本も三冊寄付すると二冊の本と交換出来る仕組みになっている。</p> <p>子供のための絵本図書館として本県でも検討していきたい。</p>
-------	--

○各参加者の所感及び調査結果の活用方針 テーマ 木育を活用した教育と取り組み

議員氏名	所感及び活用の考え方
早川 浩	<p>○「木育」の取り組みについて</p> <p>○「木育」は北海道が発祥で「子供をはじめとする全ての人が木を身近に使っていくことを通じて人と木と森との関わりを考えられる豊かな心を育む事。</p> <p>○「木を育む」情操教育的な事からいかに産業につなげていくかが課題。</p> <p>○「北海道庁の木育の特徴」は教育的観点よりも民間への振興、産業振興的観点が強い。</p> <p>○北海道の木育は森（緑）と木材（茶色）の二つを意識</p> <p>○木育の繋がりキーワードとして森林づくりとの接点が無かった人たちも含めた多くの人々が参加し結果として森林づくりや地域の木材の利用やそれを支える産業への理解を促進する取り組み。</p> <p>○知事が「木育」に注力を宣言。</p> <p>○キッドを作る木育マイスターを増やし産業に導入</p>
望月 利樹	<p>○「木育」の取り組みについて</p> <p>木育とは2004年に北海道で生まれた言葉です。</p> <p>○その後2006年に「森林・林業基本計画」として閣議決定され木育の活動が始まっている</p> <p>○子供達に「木育」の大切さを伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木を育てる環境を守り、木の文化を伝え、暮らしに木を取り入れる、「木育」から産業を活性化させ、子供達の心を豊かに出来る学びの活動である。 <p>山梨県でも積極的に「木育」を推進し身近なところから暮らしに木を取り入れ木材や森林環境の大切さを教える場所や人を取り入れていきたい。</p>
上田 仁	<p>○「木育」について様々な取り組み等を伺った。 (午前中に良品計画の店舗視察後、訪問した。)</p> <p>○木育（モクイク）：元々は北海道函館から始まった言葉</p> <p>○コンセプト・「木とふれあい、木に学び、木と生きる」</p> <p>○教育、特に幼児教育を中心に捉えた事業展開。</p> <p>○函館市内の状況は小中学校6校</p> <p>○良品計画が何故、函館に進出したのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問したが担当者は分からない、会社の社長が何かのきっかけで決

	<p>断し会社が判断したのだろう（私感）</p> <p>○全ては、人のつながりにより出来ることを痛感。</p> <p>「人材こそ財産なり」</p>
佐藤 茂樹	<p>○「木育」について様々な取り組みを伺った。</p> <p>森林大国北海道が、それも函館を含む渡島地方が発祥である。</p> <p>子供達を始めとし全ての人々が「木」を身近に感じ触れて使っていく、これが人と木と森林との関係であり豊かな心を育てていく。</p> <p>今後、「道」としても木育を通じて教育から産業へ繋げて行くことが課題である。</p> <p>「木育」は豊かな森林を育て、やがて産業へ持って行く、そこで培われた連携が子供達へ還元され輪廻のごとく回る。</p> <p>そこに人と人との良好な関係が生まれる。</p> <p>全ては人と人との繋がりから結びついている。</p> <p>「道」として豊富な資源である森林を首都圏と遠距離にあるハンディをいかに克服して産業に持って行くか流通コストとの闘いを見た。</p> <p>いかなる時・場所でも「人との繋がり」が財産であり、その繋がりがある可能性を具体化すると教えられた。</p>
水岸富美男	<p>○「木育について」</p> <p>木育という言葉は北海道で生まれた。</p> <p>○「木育」の理念として子供をはじめとする全ての人々が木を身近に使っていく事を通じて人と木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育む事を目的にしている。</p> <p>民間における「木質」の活動の積極的に推進する。</p> <p>平成 22 年度から木質マイスターの育成研修を実施している。現在 224 名が北海道知事より認定を受けている。</p> <p>午前中に研修した無印良品シエスタハコダテとの連絡協定について学んだ。</p> <p>山梨県も 8 割が森林を占めているため木育について取り入れていきたい。</p>
卯月 政人	<p>○「木育」とは 2004 年に北海道で生まれた言葉で、木を育てる環境を守り、木の文化を伝え暮らしに木を取り入れる。産業を活性化させ子供達に「木育」の大切さを伝えて心を豊かに出来る学びの活動でもある。</p>

	<p>○知事が「木育」に注力を宣言。木育マスターの育成研修を実施して現在224名が北海道知事より認定を受けている。</p> <p>○森林県である山梨県でも積極的に「木育」を推進し、暮らしに木を取り入れ木材や森林環境の大切さを教える場を設けるべきである。</p>
--	--

○各参加者の所感及び調査結果の活用方針 テーマ

新幹線開業効果を活かした、交通・観光・人口減少対策への取り組み

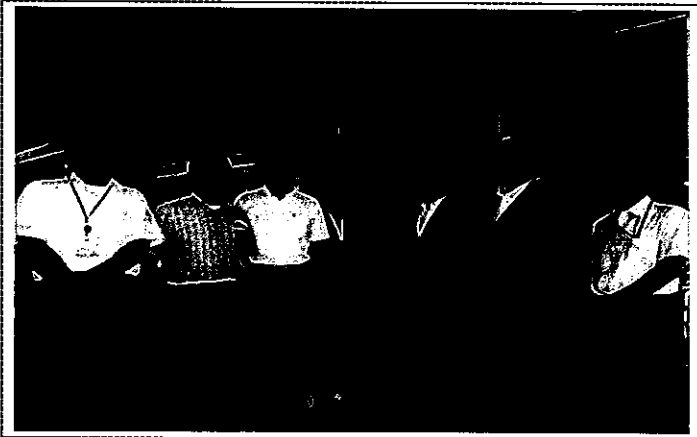
議員氏名	所感及び活用の考え方
早川 浩	<p>○交通政策課、北海道新幹線（新青森から新函館北斗間）開業の効果等について</p> <p>○昔は東北圏の取り組みが多かったが新幹線を生かすため青森県と北海道南地域の連携プロジェクト（津軽海峡交流圏）入（ラムダ）プロジェクトによる取り組みを実施。今までは関東圏南からの交通政策がメインだったが北海道北からの交通政策・観光政策を行っている。</p> <p>◎誘客交通課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新幹線と鉄道、飛行機を含めた立体型観光を推進、青函周遊観光を推進。 ・ディスティネーションキャンペーンと展開 <p><開業効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR東日本とJR北海道、北海道南地域及び青森県が一体となり取り組みを進めたことで地域の繋がりが強固になった。 ・街歩きやマグ女のような得意分野を活かした展開。 ・外国人観光客の動きが活発化。 <p>◎移住・交流推進グループ・基本計画推進グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減克服するためのポイントとして「経済を回す」という観点。 ・若者定着のために高校2年生対象に青森県内の職を紹介したパンフレットを配布 ・あおもり移住倶楽部を創立 ・民間と連携した各サービス ・出て行くことはやむを得ないので結婚や子供の学校、親の介護等々のライフステージにUターンを注力。
望月 利樹	<p>○北海道新幹線開業（新青森から新函館北斗間）開業の効果等について</p> <p>人ラムダ計画の推進東北6県のうち、最も北側であり、首都圏からは最も遠い。</p> <p>北海道と青森県の連携プロジェクトによる取り組み。</p> <p>○人口減少対策</p> <p>経済を回すという観点から人口が減少しても安心できる県づくり。</p> <p>○青森移住倶楽部の設立。</p>

<p>上田 仁</p>	<p>○北海道新幹線開業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人ラムダ計画の推進 ・人ラムダ計画の推進東北6県のうち、最も北側であり、首都圏からは最も遠い。むしろ、北海道函館との連携強化に乗り出した。結果、連絡船利用者も減ってはいない。一定の効果の感触。 ・新青森駅の開業後すぐに東日本大震災の発生 <p>統計などの数値はつかみにくい状況。</p> <p>それでも客観的な数値により様々な減少を冷静に判断している様子に感心。</p> <p>○人口減少対策について</p> <p>○対応として大きなコンセプトを持っていた。</p> <p>人口減少克服へ「経済を回す」</p> <p>この考えは知事以下、県の同一意識の共有</p> <p>○経済を回す</p> <p>人口が減少しても安心して暮らせる県づくり</p> <p>○民間の組織人により様々な提案を受ける仕組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H29には、103の提案をもらい可能な限り実行。 ・結果、民間が行政に入り積極的な対応や街作りに参加してきている。行政はその下を支えているだけで。それで充分。
<p>佐藤 茂樹</p>	<p>○北海道新幹線開業、函館北斗駅開業について、東北地方のみで取り組みだったが開業により北海道函館市を含む南北海道（津軽海峡交流圏）との連携プロジェクトとなった。また南にしか向いていなかったものが北海道も新幹線のおかげで交通政策の対象となり飛行機も含め立体的・周遊観光の推進が出来るようになった。</p> <p>○JR 東日本・JR 北海道・青森県と北海道南部地域の一体感が始まった。外国人観光客の動きが活発となり移住、交流推進グループも作った。知事以下、人口減少対策を克服するため「経済を回す」という意識を共有している。</p> <p>民間活力を導入し、行政と民間が連携し、各種サービスを実施していくとのこと。</p> <p>全国的な人口減少・少子高齢社会に突入、全国各地がしのぎを削るなか生き残りをかけて官民一体となって協力していかないと山梨も先がなくなる事となる。</p> <p>ひたすら前に向かって努力しなければならない</p>

卯月 政人	<ul style="list-style-type: none">○新幹線の効果を最大限活かすため青森県と北海道南地域の連携プロジェクトを実施。○北海道新幹線開業を契機として、大幅な時間距離の短縮により多くの方が津軽海峡を訪れるようになった。○東日本と北海道と青森県の官民が一体となり取り組みを進めた。○人口減少対策のポイントとして「経済を回す」という観点を持ち、人口が減少しても安心できる県づくりを目指している。○若者の定着を促進するため高校2年生を対象に青森県内の求職を紹介したパンフレットを配布している。
-------	--

6 調査状況 (写真)

30年7月24日 調査先 (林野庁国有林部管理課)



(コメント)

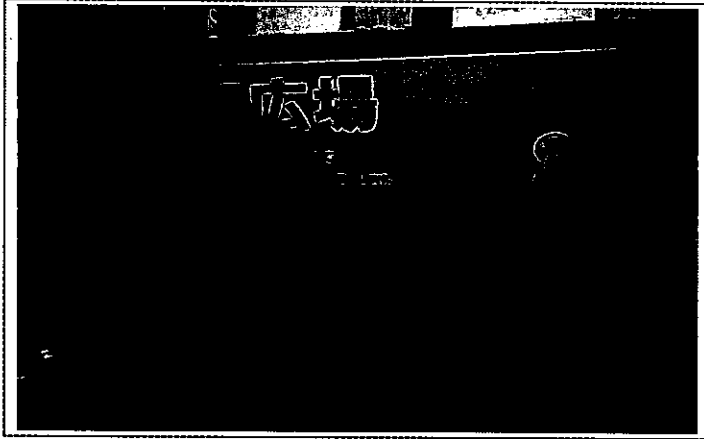
全国の森林産業の現状の確認と山梨県での課題の確認をした。



(コメント)

林野庁林政部 小島様
国有林部 村松様・宇野様
意見交換を行う。

30年7月25日 調査先 (シエスタハコダテ)



(コメント)

棚良品生活

木育の現状や取り組みを確認。



(コメント)

シエスタハコダテの運営の取り組み
うを確認。

30年7月26日 調査先（青森県庁）



(コメント)

北海道新幹線の開通に伴う様々な
側面からの取り組みについて確認



(コメント)

交通・観光・人口減少問題への取り組
みを確認